戦争、学生活動、イベント 2025 年 11 月 19 日／No.55

■ 社会学部齊藤ゼミ×板垣李光人氏 ティーチイン･セッション ■

『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』ティーチイン試写会 in 関西大学を開催

～ 若者が映画を通じて「戦争の記憶」と向き合う機会に ～

【日 時】12 月 1 日(月)16:30～19:00 【場 所】関西大学第 3 学舎ソシオ AV 大ホール

このたび、関西大学社会学部齊藤ゼミと東映株式会社では、映画『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』が 12 月 5 日（金）に公開することを記念して、12 月 1 日（月）16：30～19：00 に千里山キャンパス第 3 学舎ソシオ AV 大ホールにて「ティーチイン試写会」を開催します。本試写会を通じて、若者が戦争の記憶と向き合う機会を創出します。

本件のポイント
- **戦後 80 年を迎える今、映画『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』の試写会を通じ、戦争と向き合う機会を創出**
- **学生の戦争への理解を深めるドキュメンタリー制作をきっかけに、東映株式会社とのコラボ試写会が実現**
- **板垣李光人×関大生によるティーチイン･セッション試写会を関西大学にて開催**

■ 映画『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』ティーチイン試写会開催の経緯

関西大学社会学部齊藤ゼミでは、「関大から見る戦争の記憶」と題し、戦後 80 年を迎える今、「戦争の記憶と教訓を次世代に伝える」ために、4 グループに分かれ、学生主体で戦争関連資料を調査。学生自身の身近な戦争の記憶（祖父母や親戚の体験）に加え、現在も戦火の影響を受けるウクライナからの留学生の声を取り入れ、戦争の悲惨さと平和の尊さを　多角的に伝えるためのドキュメンタリー映像を制作しました。戦争体験者が減少する中で「資料を通して語り継ぐ」意義と可能性を探っています。

この取り組みをきっかけに、関西大学社会学部齊藤ゼミと東映株式会社が共催で、映画『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』のティーチイン試写会を関西大学にて開催することとなりました。本イベントでは、映画上映に加え、主演の板垣李光人氏と本学学生によるティーチイン・セッションを実施し、若者が戦争と平和について考える貴重な機会とします。

＜ 齊藤ゼミの学生たちが戦争関連資料を調査する様子 ＞

■ 関西大学社会学部 4 年次生 齊藤ゼミ作品代表者（4 人）からのコメント

「関西大学博物館の戦場アルバムを通じ兵士の日常を探るとともに、専門家の協力を得て、その背景を理解しました。戦争を自分ごととして考える重要性を感じましたので、試写会では一人でも多くの関大生が平和について考える機会になればと思います。」（貴道 ふみ）

「戦後 80 年を経た今、戦争経験者の高齢化に直面している状況で、次世代に記憶を伝える『語り部』の必要性を実感しました。この試写会が若い世代に戦争を考えるきっかけになればと願っています。」（中西 沙也）

「祖母から空襲や疎開の体験を聞き、戦争が生活や心に深い傷を残すことを痛感しました。試写会を通じて平和の尊さや体験を語り継ぐ大切さを同世代と共有したいです。」（向井 柚菜）

「ウクライナ出身の留学生への取材では、戦争の現実に配慮しながら対話環境を整えました。試写会を通して過去の戦争の記録から平和の尊さを考え、現在のウクライナ戦争にも思いを馳せる機会にしたいです。」（安倉 心結）

＜　映画『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』ティーチイン試写会の概要　＞

【日　時】2025 年 12 月 1 日（月）16：30～19：00
【場　所】関西大学千里山キャンパス第 3 学舎ソシオ AV 大ホール
【参加者】板垣李光人氏、関西大学社会学部齊藤ゼミ 4 年次生、
【司　会】樋口大喜氏（2014 年関西大学法学部卒・FM802DJ）
【内　容】映画本編上映、板垣李光人氏と関大生によるティーチイン・セッション　他
【料　金】無料　　【定　員】300 人（先着）　　【対　象】関大生のみ
【主　催】関西大学社会学部齊藤ゼミ、東映株式会社

■ 登壇キャスト

板垣 李光人（いたがき りひと）
2002 年 1 月 28 日生まれ。確かな演技力と唯一無二の存在感が注目され、2024 年日本　アカデミー賞新人俳優賞を受賞、若手俳優の中で最も勢いのある一人。映画『かがみの孤城』(2022) では声優に初挑戦した。映画『ブルーピリオド』(2024)、『はたらく細胞』(2025)、『ババンババンバンバンパイア』(2025) やドラマ「秘密～THE TOP SECRET～」(2025・関西テレビ・フジテレビ)、「しあわせな結婚」(2025・テレビ朝日)、「ばけばけ」(2025・NHK) など、ジャンルを問わず話題作への出演が続き、多彩な役を演じ注目を集めている。

■ 映画『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』の作品概要

【タイトル】ペリリュー ―楽園のゲルニカ―
【公開表記】2025 年 12 月 5 日（金）全国公開
【キャスト】板垣李光人 / 中村倫也、天野宏郷、藤井雄太、茂木たかまさ、三上瑛士
【主 題 歌】上白石萌音「奇跡のようなこと」(UNIVERSAL MUSIC / Polydor Records)
【原　　作】
武田一義「ペリリュー ―楽園のゲルニカ―」(白泉社・ヤングアニマルコミックス)
【監　　督】久慈悟郎　脚本:西村ジュンジ・武田一義　【配　　給】東映
【コピーライト】©武田一義・白泉社／2025「ペリリュー ―楽園のゲルニカ―」製作委員会

＜ストーリー＞

仲間の最期を「勇姿」として手紙に書き記す功績係――彼が本当に見たものとは？

太平洋戦争末期の昭和 19 年、南国の美しい島・ペリリュー島。そこに、21 歳の日本兵士・田丸はいた。漫画家志望の田丸は、その才を買われ、特別な任務を命じられる。それは亡くなった仲間の最期の勇姿を遺族に向けて書き記す「功績係」という仕事だった。

9 月 15 日、米軍におけるペリリュー島攻撃が始まる。襲いかかるのは 4 万人以上の米軍の精鋭たち。対する日本軍は 1 万人。繰り返される砲爆撃に鳴りやまない銃声、脳裏にこびりついて離れない兵士たちの悲痛な叫び。隣にいた仲間が一瞬で亡くなり、いつ死ぬかわからない極限状況の中で耐えがたい飢えや渇き、伝染病にも襲われる。日本軍は次第に追い詰められ、玉砕すらも禁じられ、苦し紛れの時間稼ぎで満身創痍のまま持久戦を強いられてゆく――。

田丸は仲間の死を、時に嘘を交えて美談に仕立てる。正しいこと、それが何か分からないまま...。そんな彼の支えとなったのは、同期ながら頼れる上等兵・吉敷だった。2 人は共に励ましあい、苦悩を分かち合いながら、特別な絆を育んでいく。

一人一人それぞれに生活があり、家族がいた。誰一人、死にたくなどなかった。ただ、愛する者たちの元へ帰りたかった。最後まで生き残った日本兵はわずか 34 人。過酷で残酷な世界でなんとか懸命に生きようとした田丸と吉敷。若き兵士 2 人が狂気の戦場で見たものとは――。

＜　映画『ペリリュー ―楽園のゲルニカ―』のウェブサイト　＞https://peleliu-movie.jp/index.html

【本件の取材に関するお問い合わせ先】
東映(株)西日本支社映画配給室 宣伝担当
kansai_eiga(at)toei.co.jp　※(at)は@に置き換えてください。

配信元
関西大学　総合企画室 広報課　　担当：明原、伊地知、小林
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35　Tel.06-6368-1131　Fax.06-6368-1266
www.kansai-u.ac.jp